

研究・調査報告書

報告書番号	担当
343	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
<p>Folate, alcohol, and aldehyde dehydrogenase 2 polymorphism and the risk of oral and pharyngeal cancer in Japanese.</p> <p>葉酸、アルコール、アルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型と、日本人の口腔癌及び咽頭癌のリスク</p>	
執筆者	
Matsuo K, Rossi M, Negri E, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Tanaka H, Tajima K, La Vecchia C.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Eur J Cancer Prev. 2012 Mar;21(2):193-8.	
キーワード	
葉酸、口腔癌、咽頭癌、アルデヒド脱水素酵素 2、遺伝子多型、日本人	
要 旨	
<p>目的： 葉酸摂取は口腔癌及び咽頭癌(OPC)のリスクと逆相関しており、潜在的にOPCのリスクと関連している。アルデヒド脱水素酵素2（ALDH2）の遺伝子多型はアルコール消費量と相互作用することが知られている。本研究の目的は、葉酸、飲酒、日本人におけるOPCのリスクのALDH2遺伝子多型との間の潜在的な相互作用を明らかにすることである。</p> <p>方法： 頭頸部癌症例409人（ケース）および年齢と性別を合致させた1,227人の非癌例(コントロール)を調査した。このうち、251例（ケース）および759例(コントロール)を、ALDH rs671多型について評価した。関連は多重ロジスティック回帰モデルを用い、オッズ比と95%の信頼区間によって評価した。</p> <p>結果： その結果、葉酸の消費とOPCリスクの間に逆相関を認めた。高容量の葉酸摂取群のオッズ比は低用量の葉酸摂取群に比べ0.53（95%信頼区間：0.36—0.77）であった（トレンドP = 0.003）。この関連は、性別、年齢、喫煙、ALDH2遺伝子型を調整しても同様に観察された。葉酸摂取量、飲酒、ALDH2遺伝子型との間の相互作用が顕著に認められた（スリーウェイの相互作用、P < 0.001）。</p> <p>結論： 我々は、日本人において、葉酸、飲酒、ALDH2遺伝子型の間に関連した相互作用を観察した。</p>	